

【 短 歌 。 俳 句 。 川 柳 】

本誌編集室担当

短 歌

晩学の父に習いて残り火を

燃やし一步を踏み出さんとす

●印西市 山田 明

多摩川の紺碧空のキャンバスに

飛行機雲の白線のいたずら

●狛江市 根方一吉

夕食を済ませて夜の眠りより

永久とわの眠りになりしと聞けり

●東京都神津島村 石田希代子

勇気もてガンバル姿尊くて

人にも勇気与えることぞ

●平塚市 鬼武澄澄

ゴミ出していっしか会話する人に

夫の役だと二人でなげく

●平塚市 田中博由

令和なり昭和に生まれ遙かなる

来し方交々人生行路は

●長岡市 近藤 博

淡雪よ袖にころがり水玉か

払いのけずば真珠となりし

●福知山市 岫尾 充

証明を見せる前からシニア割

嬉しくもあり悲しくもあり

●木津川市 岡嶋眞澄

受験子であつたことなどまう忘れ

新聞に載る数独を解く

●明石市 小田和子

ポケットの春手袋は軍手なり

休憩中の焚火に伸ばす手

●明石市 小田慶喜

おーい雲隠れずに雨降らす世は

はかなくも汗物価に雨で

●南あわじ市 小川千富

桜並木虫枯れ切株年輪に

吾れよわ齡重ね思いを巡らす

●香芝市 高田尚昭

俳 句

赤椿木々の隙間の女王様

●仙台市 菱沼俊行

雛じまいそっぽを向いて箱の中

●湯沢市 須藤正子

春散歩ポケットに溶けた珈琲飴

●神栖市 安澤宏介

青眩まよし始業式かなスカーフひらり

●小山市 塚野 京

喪帰りの膝つつみ込む春シヨール

●小山市 原田利江

砂浜に探して一つ桜貝

●草加市 長谷部禎子

春の夜半抱いた猫は息乏し

●戸田市 稲田隆博

挑戦は傘寿超えての春の夢

●武蔵村山市 原野晴光